拓水

5月号
No. 272

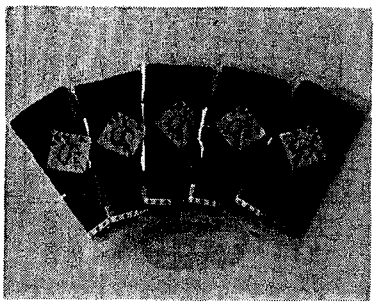
発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産業改良普及協会
〒652
神戸市兵庫区中の島2の2の1
発行人　兵庫県漁業協同組合連合会
会長理事　山田岸松
TEL　681－6954～7
一部　10円

県養殖史上最高を記録
―のり共販取扱実績―

53のり年度入札会おわる

昭和五十三のり年度共販は、去る四月二十八日本会のり流通センターにおける入札会をもって、愈々全国的に納会となったが、多数の参加者のもとに極めて盛会裡に終始したことは、誠に心強く御同慶にたえない次第です。

本年度のり生産は、全国的に種網生産が例年になく順調に推移し、特に秋芽網生産が好調なスタートとなり、年内生産三十二億枚（前年十五億枚）と前年の二倍以上の生産となりました。



品質的には気温、水温が高目に推移したため伸びすぎ等で若干低下が目立ったが、幸い病害等の発生も少く、一月後半より適度な降雨により順調な生産が続き、最終的な総生産量は、九十二億枚（前年七十億五千万枚）程度と予想され、昭和四十八年の大豊作に次ぐ生産量となりました。

一方、流通面においては、全国的に実施されてきた漁期対策により在庫調整が進むと共に、最近の外食産業等の普及による需要の増加により、需給関係が好転したためと、更にのり商社の資金調達が順調で、大幅な生産量の増加、製品向上対策による改善もみられ、比較的堅調な相場で取引きされ、全国平均価格は一、六九四円（前年度一、八四四円）となりました。

数量、金額とも大幅な伸長

本県の生産も、採苗期には不安定な海況にあり、一部地区において発芽不良等による問題もありましたが、本格的な生産期に入ってからは好転し、例年になく早期生産に始まり終盤まで好調な生産が続きました。価格面についても、強調な相場に支えられて、共販における平均価格は一、九六九円（前年二、〇五三円）となり共販取扱実績十億六百万枚、一九八億円（前年度六億九千万枚、一四三億円）となり、数量、金額とも大幅な伸長となり、本県養殖史上最高を記録しましたことは御同慶に存じます。

特に本年度は当会としても加工技術の改善、或は加工場の環境調査等、製品向上についての現地指導を積極的に実施し、また生産者においては、新らしい加工機械の導入による製品の向上、更には省力化が進められたが、反面では不良品の混入（特に撰別不良、小穴）等による流通サイドからのクレームも依然として跡を断たない状況にあります。

従って、兵庫のりの品質向上については、今漁期の結果を充分反省のうえ、今から来漁期に備えての心構えを検討する必要があります。

合同供養祭は7月21日に

兵庫県下漁業者の総意によって、兵庫県漁民物故者合同慰霊塔（漁友鎮魂之塔）ならびに海の幸供養塔が昭和51年4月30日に建立され、同日、開眼供養祭が執り行われて以来、この日を例祭日として、年ごとの物故者の合祀も併せて供養祭が行われてきましたが、のり漁期をはじめとした種々の問題や、慰霊塔・菩提寺の高野山遍照光院の行事都合などに鑑み、県漁連では同院との協議を重ねた結果、例祭日を7月21日に変更することとしました。

本年からは供養祭例祭日が7月21日変更されましたが、県漁連では、以前にも増して多数の参加があるようにと種々の協力を依頼しています。

新会長に山田氏（会長兵庫県漁連）が就任

兵庫県漁港協会の役員改選

昭和54年5月15日にのじぎく会館で役員会を開催し、森前会長の辞任に伴う会長及び副会長の改選を行いました。

その結果、満場一致で新会長には神戸市漁業協同組合長山田岸松氏、副会長に香住町長西上寛氏、北淡町長藪田房夫氏が選出されました。

森前会長は、昭和34年7月に本協会の理事に選出され、昭和41年8月に副会長に就任され、かつ、昭和46年8月には長会長の後を受けて会長に就任され、今日まで20年の間漁港整備促進のため、漁港予算の増額をはじめ、漁港課の新設、地元負担の軽減等々その御功績はまことに大なるものがあり、このたび本協会の名誉会長に就任していただき、今後ともなにかと御助力をお願いすることになりました。

なお、当日の役員会ではこのほか、昭和56年にポートピア博覧会に併せて全国漁港大会を神戸市で開催すること及び協会の事務局を強化することが決まりました。

のり入札会見付風景（播磨町流通センター）

すなどり

○…推…進…雑…感…○

信漁連総務部長　駒居吉晴

昭和五十三年度における県下の漁業動向は、漁船漁業にあっては漁場の狭隘化、競争の激化、魚価安等いろいろの影響により不振のうちに終始した。反面、内海のり養殖漁業は、漁期後半より好調に推移し、前年度をしのぐ好成績をあげ得た。

このように漁業経営の内容は、業種別には格差の大きい不安定な年度であったともいえよう。一方、このような状況下にあった漁協貯金は、年度中途目標達成が困難視される時期もあったが、のり漁業の好成績にささえられ、期末残高で三百三億五千万円、年間増加額四十一億九千万円の見事な成績で目標を達成することができたのは、これひとえに会員各位のたゆまざる努力の成果であり、この熱意に対し深く感謝する次第である。

さて、本年度における漁業経営環境は、油価格の値上り等ますますきびしさを増しており、組合員にとっては減量経営の努力がなお必要である。漁協にとっても自助資金の蓄積、即ち、漁協貯金の増強は不況克服への必須の要件といえよう。このような意味から、本年度の漁協貯金の増強について、新しい企画から更に一段の飛躍を期して強力な運動展開をはかるものである。重点目標として、㈠系統集中率の向上、㈡年間水揚代金以上の貯金確保、㈢大型定積の金戸加入運動、㈣五億円以上の平残運動推進、の四項目をあげている。この推進方策としては、漁村の浦浜における地道な貯蓄運動を柱として、外務活動をつうじて、漁家経営の相談機能をフルに活用し、更に組合員のニーズを適格に把握して、対処する方針である。幸いにして本会の為替業務も全銀加盟により、機能充実がはかれたので、今後の貯蓄推進に大きな力となることを期待している。

本年二月より信漁連が加盟した全銀データー通信システムは、従来、全国の銀行八十七行で組織され運用してきたのであるが、今回、相互銀行、信用金庫とともに系統（農林中金・信農連・信漁連）が新たに加わり、加盟金融機関も七百を超し、その店舗も約一万七千と飛躍的に増大することとなった。このように他行為替の可能な金融機関を網羅したこのシステムへの加盟は、信漁連にとって為替業務の格段の充実につながり、かつ、漁協にとっても、大きな利便性を得たことになるのである。今後の貯蓄推進にあたってはこの「便利さ」を最大限に活用し外務活動とあいまって、組合員へのサービス機能を充実させたいと考えている。

元来、為替業務は預金者に対するサービス業務として位置づけられていたが、最近では金融機関の大衆化と取引きの広域化により、取引き量も大幅に増加し、主要業務の一部門となりつつある。その内容は送金、振込、代金取立といった業務が主体であるが、その他に給与・年金の振込、各種口座振替等、多面化して利用されている。すでに県下の数組合では、新しい貯蓄財源として、年金受入事務に積極的に取り組み、大きな実績をあげつつあり、貯蓄推進の上からも「集める貯金」から、決済機能を活用した「集まる貯金」への質的転換に、大きな期待を寄せているものである。

のり生産用資材器具展示会

去る五月十二日（土）、県漁連のり流通センターにおいて、海苔生産関連メーカー六十三社が出品して昭和五十四年度のり生産用資材器具展示会が開催されました。

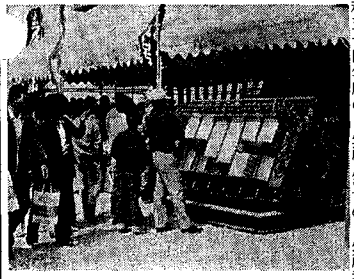
展示会は毎年好評をえ、県漁連の定例行事として、のり生産者の方々に広く生産資材器具を紹介する場として、のり漁期終了後、開催されています。

本年ののり生産は暖冬で心配されましたが生産者の養殖技術の開発と努力により、兵庫県のり養殖史上最高の水揚となりました。これを反映して、のり生産者の人波は晴天に恵まれ早朝よりつめかけ、午前中をピークに午後三時終了までに二千三百人の来場者で手を洗うような混雑となり、生産者が熱心にメーカーの説明を聞き質問をしている姿は熱気を帯びており、次年度ののり生産にかける期待と意気込みを伺わせる盛況ぶりでありました。

今回は全商品が屋外展示され、西・南側に全自動機等大型加工機械が向いに小型機械、中通りにのり網、ロープ及び養殖関連資材、東側に漁船、エンジン、無線機一般資材が展示され、即売等も行われ、各店趣向をこらし来場者の関心をあつめました。のり生産は全自動のり製造機等の省人省力化の機械に関心が集中し各商品に期待と不安をもちながら特に三洋テズカ・竹下産業・アイサン工業・富士機械のコーナーではメーカーとの意見交換が熱心にされていました。

また各テナント内はメーカーを交え各地区の情報交換が行われ騒然として、さながら漁業祭のごとくにぎわっていました。

なお、第四回淡路のり品評会の表彰式が十一時から流通センター会議室において挙行されたのも展示会に花をそえていました。



展示中の全自動のり製造機

兵庫県漁協貯蓄 三百億円突破

信漁連

昭和五三年度は「全国漁協貯蓄二兆円達成運動」「兵庫県漁協貯蓄五百億円達成運動」の初年度でありまして、二百九十億円達成を目標として、漁協、信漁連一体とした推進体制で、スタートしました。

しかし本年の水揚高内容は漁船漁業が振わず、加えて資材、燃油の高騰、魚価の低迷等、生産面の悪化に footnotes 渦いされて、十二月末までもその達成が危惧されていましたが、幸いのり養殖漁業の高い生産性と、年度末に実施した全県運動の努力が実り、三月末残高三〇三億五千万円という偉大な業績をあげることができまして、本県漁協の信用事業が一段と強化されました。

この成果は、第一線でご活躍の各漁協役職員のご努力と、組合員並びに婦人部員のご理解あるご協力の賜でありまして、県下漁協の総力をあげての達成で敬意を表すると共に、心強くご同慶に存じます。

期間中純増加額42億円

次に実績を顧りみますと、別表残高表のとおり、本目標額を設定した五二年度末残高は、二六一億六千万円の実績でした。この年度が全国漁協貯蓄一兆円繰り上げ達成の年度でありましたので、相当無理をして積上げた実績を基本としました関係で、年度当初二九〇億円の各漁協の自主増加目標額を決定する段階で、非常にきびしく一部の漁協に至難かと思われる目標額を、引受けていただいたことは記憶に新しいところであります。

しかるに実績は三〇三億円と驚異的な数字となり、期中純増加額四一億九千万円、伸び率一六％で兵庫県漁協の意地を示すことができましたことを深謝する次第であります。

海区別実績

次に海区別の実績（残高表）を述べてみます。

摂播海区

前年度末残高、六五億二千万円、目標額、七三億五千万円、実績、八三億七千万円で、期中純増加額、一八億五千万円、目標達成率、一一三・八％伸び率、二八・四％と優秀な実績をあげ県下の目標額達成に貢献しました申します。

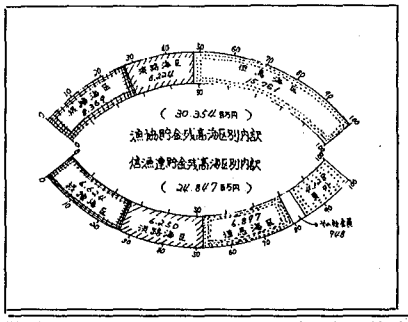
この地区には大型のり養殖業の高い生産性と、年度末に実施した全県運動の努力が実り、三月末残高三〇三億五千万円という偉大な業績をあげることができまして、本県漁協の信用事業が一段と強化されました。

この成果は、第一線でご活躍の各漁協役職員のご努力と、組合員並びに婦人部員のご理解あるご協力の賜でありまして、県下漁協の総力をあげての達成で敬意を表すると共に、心強くご同慶に存じます。

昭和53年度末漁協貯蓄海区別残高表

（単位：千円）

海区別	昭和53年3月末貯金残高	昭和54年3月末目標額	昭和54年3月期貯金残高	達成率	前年比伸率
				%	%
摂播海区	6,519,668	7,354,000	8,369,008	113.8	28.4
淡路海区	5,183,431	5,909,000	6,224,587	105.3	20.1
但馬海区	14,455,912	15,796,000	15,760,731	99.8	9.0
県合計	26,159,011	29,059,000	30,354,326	104.5	16.0



末残高、五一億八千万円、目標額、五九億一千万円、実績、六二億二千万円で、期中純増加額、一〇億四千万円、目標達成率、一〇五％、伸び率二〇・一％と優良な実績をあげ、この海区の貯蓄増強運動も地について今後の活躍がさらに期待されます。

この海区も多くの漁協がのり養殖を経営していますが、全島あげての協力の賜と考えます。

但馬海区

前年度末残高、一四四億六千万円、目標額、一五七億九千万円、実績、一五七億六千万円で期中純増加額、一三億円余で、目標達成率九九・八％、伸び率九・〇％とわずか目標額に追いつきませんでしたが良好な成績だったと思います。

この海区は沖合漁業の大型漁協で、ご承知のとおり二〇〇海浬問題漁獲高の大幅の減少で、経営不振の漁業者のある中での成果であり、長年培かわれてきた漁業者の心の功績がこの実績をあげたものと感謝する次第であります。

協同精神をもとに 地道な運動展開

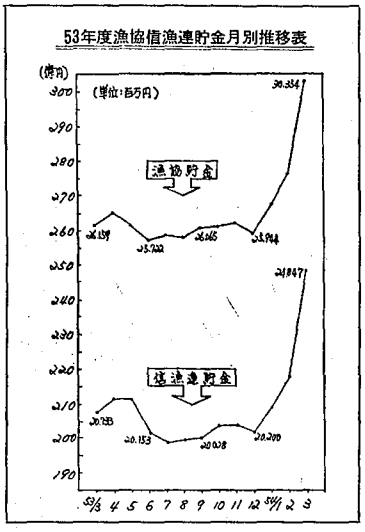
本年の運動を顧りみて、貯蓄増強運動では期末集中増加もある程度必要とは思われますが、長期的な系統運動でありますので、徐々に積上げる平残運動の強化を啓もうして、協同組合精神をもとにする地道な貯蓄運動の浸透に努力していきたいと思いますので、一層のご協力ご尽力をお願い申し上げます。

終りに本会貯金実績を述べますと、別表月別推移表のとおり、漁協貯金の増加をまともに受けまして、本年度末残高、二四八億五千万円、期中純増加額四一億円、達成率、一一九％、伸び率、一九・八％でありまして、系統再預けの向上と関係諸団体の全面利用のお蔭をもちまして、飛躍的な伸長で計画を大きく上回る成果をあげました。

ここに厚くお礼申し上げますとともに、引続いて次期目標額にむかって邁進いたしますので、皆様方のご理解あるご協力をお願い申し上げます。

× ×

53年度漁協信漁連貯金月別推移表



チョコー（五億二千万円）目標額の106％達成

ノリコー目標額の79％

保障のある暮らし

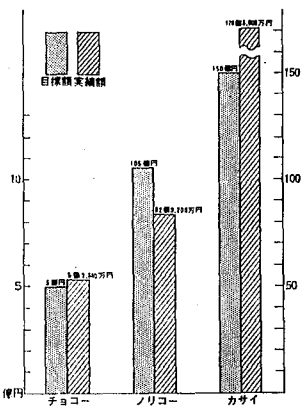
全水共

昭和五三年度は、五億円を新規契約目標額（満期共済金額）に活発な普及推進活動を展開いたしました。

その結果、目標額の一〇六％、五億二、六四〇万円の達成で、前年度実績対比一一六％となり、本県の年度末保有契約は三〇億四、六八二万円、契約件数四、〇八五件となりました。

漁業者の皆様や家族の方の病気や事故などを保障し、あわせて放置すれば民間保険会社に流出してゆく巨額な資金を、漁協系統内に循環するという重要な使命を果していることとなり、漁協の共済としてチョコーが、漁業協同組合及び水産系統団体の組合員や役職員の方々に除々に認識していただき、普及浸透している証拠であります。

一方、契約高の増加に伴ない支払関係も増加し、昭和五三年度中の支払は、死亡二十六件、傷害一件、入院手術三十九件、通院七件、合計七十三件、金額にして三、七六二万円の支払となり前年度対比三二三％と伸長し、その役割を果しているといえるのであります。

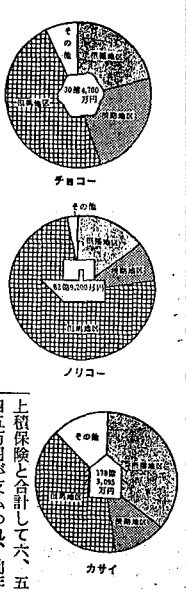


53年度計画と加入実績

昭和五三年度は目標契約金額一〇五億円に対し実績額八二億九、二〇〇万円となり、七九％の達成で前年度対比九二％となりました。

これは、五t未満漁船漁業者の加入が増加したにもかかわらず、きびしい漁業情勢の中、沖合イカ釣り、沖合底曳網漁業経営体が減少したためであります。

一方、共済金の支払は増加し、死亡九件、傷害一件、入院四件、合計十四件、三、六九五万円の支払となり、ノリコーを通じ、支払対象となった漁家にとっては、誠にお気の毒な次第であります。



カサイ（火災共済）

昭和五三年度は、目標額一五〇億円に対し実績額一七八億三、〇九五万円となり、目標額に対し一一九％の達成となりました。

これは、住宅物件の継続加入時におすすめ共済金増額運動を実施した結果と漁業協同組合施設の拡大による高額加入のためであります。

共済金の支払は十二件で八六二万円となりました。

くうし（生活総合共済）

昭和五三年十月一日より発足したこの共済は、住宅及び家財を火災、風水害、地震などによる災害と家族の方の災害死亡を保障し満期時には満期共済金を支払う制度であります。

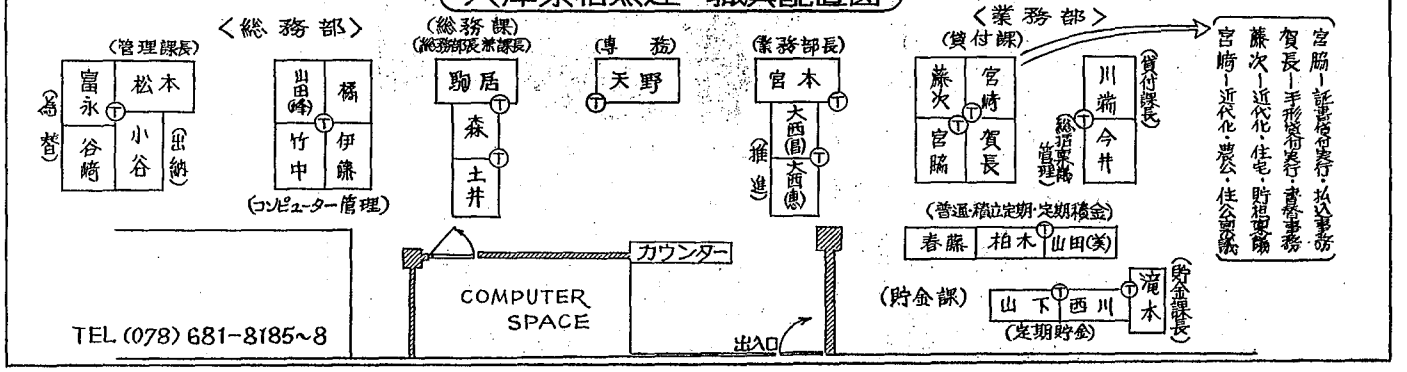
契約高は九件四、一〇〇万円となりました。

くるま（自動車共済）

本年度の契約実績は四十六台、別働体契約をあわせて一六九台となり、前年度と比較し十二台の増加となりました。

上積保険と合計して六、五四五万円が支払われ、前年度対比三七九％となりました。チョコー、ノリコーを通じ、支払対象となった漁家にとっては、誠にお気の毒な次第であります。

兵庫県信漁連 職員配置図



4月の漁況と海況

⊙海　況

※　播磨灘……4～5月の調査結果では中・南部では各層11.0°C台を示し他の海域は10.5°C内外でやや低目であったが全域にわたって上・下水温差がなく平年比較では＋1.0°C内外高目を示している。

※　大阪湾（淡路島側）……19日の調査結果では全域にわたって偏差がなく各層13.5°C内外を示したが平年比較では他海域（播磨灘・紀伊水道北部）に比し＋1.0°C高目を示している。

※　紀伊水道北部……18日の調査結果では東部（和歌山側），中部（沼島南）では各層15.5°C内外を示し西部（徳島側）では各層13.1°Cを示し東西とでは±2.5°C内外の偏差，また平年比較では＋1.0°C内外高目を示している。

このように各海域とも本年の暖冬の影響で例年より＋1.0°～1.7°C高目に経過している。

⊙　漁況

（各地・以下は1日1隻当りの平均漁獲量，@は1キロの平均単価円，何隻は操業隻数）

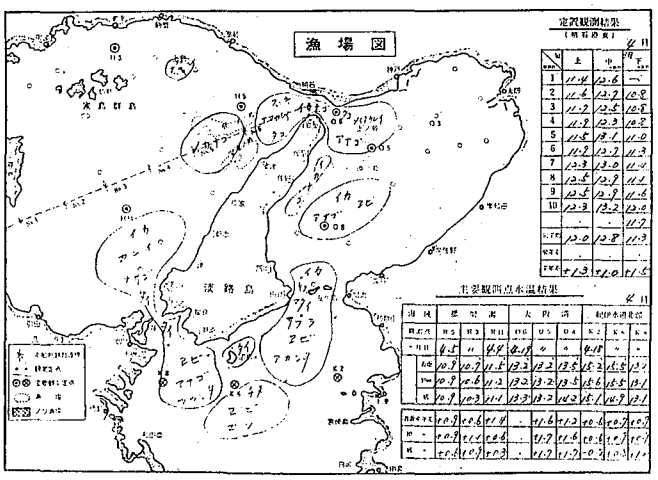
※明石浦……小型底曳網アマカレイ20キロ@㊋2,500，㊌1,500，メイタカレイ15キロ@㊋4,000㊍3,000，ハリイカ8キロ@1,250，マダコ7キロ@1,150，アナゴ10キロ@1,400，アイナメ10キロ@2,250，エビ5キロ@2,500，10隻（大阪湾）。メイタカレイ15キロ@3,500，アマカレイ20キロ@2,000，ハリイカ5キロ@1,250，マダコ7キロ@1,150，アイナメ10キロ@2,250，アナゴ10キロ@1,400，エビ5キロ@2,500，20隻（播磨灘）。各一本釣ススキ10キロ@1,750，アイナメ5キロ@2,000，35隻。アイナメ33キロ@2,900，5隻。延縄アマカレイ50キロ@2,000，20隻。ブンチン漕イシカレイ15キロ@1,500，アマカレイ10キロ@1,500，コチ3キロ@1,500，7隻。イカナゴ船曳6,000キロ@65，1統。

※岩　屋……船曳網イカナゴ6,000～8,000キロ@75，22統。小型底曳網アナゴ20キロ@800，キス3キロ@1,800，ハリイカ5キロ@1,500，エビ12キロ@1,800，11隻。一本釣メバル5キロ@2,250，アイナメ3キロ@2,700，70～80隻。各延縄アナゴ30キロ@800，10隻。アマカレイ27キロ@2,500，キス3キロ@2,400，10隻。アマカレイ27キロ@2,500，キス2,400 3キロ@2,400，10隻。流し刺網キス10キロ@2,500，8隻。壷縄タコ10キロ@1,450，2隻。

※由　良……小型底曳網マダイ22キロ@3,610，10隻。アナゴ8キロ@1,080，イカ6キロ@1,300，キス6キロ@1,600，シラサエビ5キロ@2,500，その他15キロ@300，30隻（板曳）。アカシタ20キロ@1,480，シヤコ10キロ@350，アマカレイ5キロ@2,000，メイタカレイ3キロ@2,400，40隻（石桁）。曳網サワラ5キロ@2,200，60隻。ススキ7キロ@2,000，20隻。一本釣メバル12キロ@2,200，10隻。各延縄キス10キロ@2,400，7隻。アナゴ40キロ@1,400，その他18キロ@400，4隻，各刺網キス12キロ@1,700，6隻。メイタカレイ4キロ@2,400，イカ8キロ@1,300，オコゼ3キロ@3,600，その他7キロ@700，10隻。壷縄タコ28キロ@1,510，3隻。突棒アワビ3キロ@2,000，サザエ5キロ@1,200，5隻。

※沼　島……小型底曳網マダイ5～30キロ@㊋3,200，㊍2,500㊌2,000，チヌ10～30キロ@1,050，40隻（板曳）。カワツエビ㊋3キロ@2,100，㊌3キロ@600，ハリイカ13キロ@1,000，アナゴ13キロ@650，6隻。一本釣マダイ3キロ@㊋4,200㊍3,500㊌3,000。曳網エソ150キロ@100，合計50隻。延縄アナゴ20キロ@㊍800，㊋500，4隻。刺網ハリイカ3キロ@1,200，マダイ2キロ@2,800，ヒラメ1キロ@㊋3,000㊍1,600，ウマズラハギ1キロ@600，アカシタ1キロ@1,500，25隻。突棒アワビ3キロ@2,500，サザエ7キロ@1,000，マダコ2キロ@900，5隻。

※福　良……小型底曳網シラサエビ1キロ@4,500，カワツエビ4キロ@2,100，雑エビ13キロ@（活）600，クルマエビ0.1キロ@8,000，ガザミ㊋1キロ@3,000，㊌2キロ@1,000，アカシタ5キロ@1,000，13隻（石桁）。アイナメ3キロ@2,500，ハリイカ5キロ@1,000，メイタカレイ10キロ@2,750，カサゴ3キロ@1,500，トラハゼ5キロ@350，フカ5キロ@200，13隻（桁曳）。撒餌釣小アジ30キロ@1,250，ススキ60キロ@1,800，チヌ18キロ@1,750，メバル8キロ@2,000，4組。各一本釣小アジ2キロ@1,250，カサゴ3キロ@1,900，メバル4キロ@1,900，シログチ3キロ@500，20隻。マダコ3キロ@1,100，3隻。各延縄アナゴ50キロ@800，3隻。アマカレイ5キロ@1,800，キス4キロ@2,000，10隻。刺網カサゴ3キロ@1,200，ボラ3キロ@1,000，アワビ1キロ@2,000，10隻。船曳網サヨリ20～40キロ@9,000，15統。各突棒ナマコ（赤）1キロ@500，アワビ9キロ@2,500，イソガイ15キロ@450，10隻。ウニ50枚1枚825，6隻



5月の漁況と海況

⊙　海況

※　播磨灘……7～8日の調査結果では全般的には前月とは逆に東・北部が高く各層14.5°C内外，中・南部がやや低く中・底層で12.5°C～13.8°C，平年比較では＋0.5°～1.0°Cの高目を示しているが除々に例年並に復している。

※　大阪湾（淡路側）……25日の調査結果では全域各層にわたって17.0°C内外で前月に引続き＋1.0°～1.5°C高目が持続している。

※　紀伊水道北部……現在未調査で下旬後半に実施予定であるが平年より1.0°C内外高目に推移していると考察している。

⊙　漁況

（各地・以下は1日1隻当りの平均漁獲量，@は1キロの平均単価円，何隻は操業隻数。）

※明石浦……小型底曳網エビ㊋30キロ@2,250，㊌30キロ@700，アナゴ5キロ@800，オコゼ15キロ@2,750，7隻（大阪湾北西部）。メイタカレイ8キロ@㊋3,500㊍2,000，アマカレイ20キロ@1,500，タコ8キロ@1,150，エビ7キロ@1,500，ハリイカ10キロ@1,100，アナゴ10キロ@㊋1,200，㊌500，アイナメ8キロ@1,750，25隻（播磨灘東部）。各曳網ススキ25キロ@㊋2,800，㊍1,800，30隻。サワラ5～6尾@1,700，15隻。各一本釣アイナメ10キロ@2,250，メバル30キロ@2,750。ススキ10キロ@2,300，各随時5隻。ブンチン漕イシカレイ15キロ@1,500，アマカレイ10キロ@1,500，コチ3キロ@1,500，7隻。

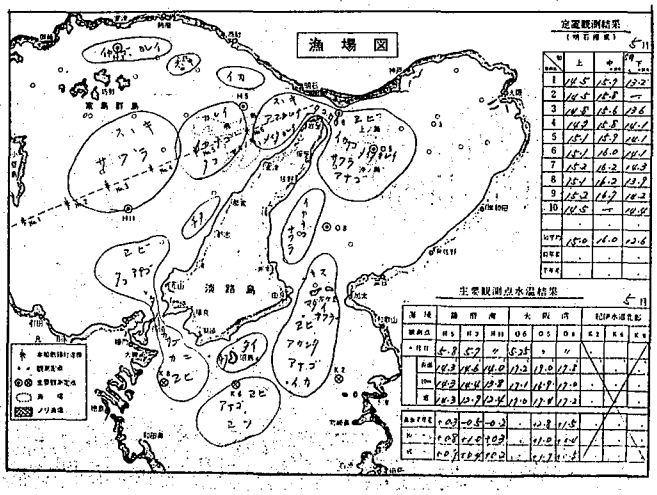
※岩　屋……小型底曳網エビ25キロ@1,800，アナゴ10キロ@800，13隻。吾智網マダイ25～30キロ@3,500，2隻。船曳網イカナゴ400～600キロ@85，8統。各一本釣アイナメ8キロ@2,750。カサゴ4キロ@2,300。シログチ9キロ@400，合計80隻。曳網サワラ2尾@1,550，8隻。延縄アナゴ㊋45キロ@1,200，㊌20キロ@440，10隻。刺網キス10キロ@1,800，5隻。壷縄10キロ@1,250，3隻。

※由　良……各小型底曳網マダイ25キロ@4,080，10隻。アナゴ7キロ@1,300，イカ8キロ@1,200，タコ5キロ@1,100，キス3キロ@1,000，シラサエビ5キロ@2,200，その他7キロ@400，40隻（板曳）。アカシタ23キロ@1,310，シヤコ12キロ@400，アマカレイ4キロ@2,100，メイタカレイ2キロ@3,500，30隻（石桁）。曳網サワラ10キロ@1,800，60隻。各一本釣マダイ3キロ@4,100，25隻。メバル10キロ@2,300，6隻。各延縄キス8キロ@2,200，6隻。アナゴ51キロ@1,200，その他3キロ@500，4隻。グチ20キロ@600，カサゴ15キロ@1,560，3隻。各刺網キス13キロ@1,600，6隻。メイタカレイ2キロ@3,500，アマカレイ7キロ@2,100，メバル2キロ@2,200，その他6キロ@700，10隻。壷縄マダコ25キロ@1,350，3隻。突棒アワビ3キロ@2,000，サザエ4キロ@1,300，3隻。

※沼　島……各小型底曳網カワツエビ㊋3キロ@2,100，㊌3キロ@600，ハリイカ5キロ@800，アナゴ15キロ@700，5隻。マダイ5～30キロ@㊋3,000，㊍2,500，㊌2,000，チヌ10～50キロ@1,050，40隻。一本釣アジ20キロ@1,200，25隻。曳網エソ100キロ@100，25隻。延縄ハモ25キロ@㊋4,400㊍3,800，4隻。刺網マダイ2キロ@2,500，ハリイカ3キロ@1,000，ウマズラ1キロ@500，アカシタ1キロ@1,500，25隻。突棒アワビ3キロ@2,500，サザエ7キロ@1,000，マタコ1キロ@1,000，5隻。

※福　良……小型底曳網シラサエビ10キロ@4,500，カワツエビ7キロ@2,500，雑エビ10キロ@300，クルマエビ0.2キロ@3,000，ガザミ1キロ@3,000，アマカレイ5キロ@800，22隻。吾智網マダイ22キロ@3,600，チヌ7キロ@1,250，フカ15キロ@450，5隻。各一本釣アジ10キロ@1,450，8隻。カサゴ6キロ@㊋2,000㊌400，5隻。タコ7キロ@1,200，20隻。撒餌釣小アジ27キロ@1,450，ヒラメ3キロ@2,750，ススキ20キロ@2,000，マダイ10キロ@3,600 5組。各延縄アマカレイ3キロ@2,300，キス7キロ@1,000，6隻。ハモ45キロ@4,000，10隻。刺網アイナメ1キロ@1,800，ハリイカ1キロ@1,000 アマカレイ3キロ@2,000，カサゴ2キロ@1,500，ベラ5キロ@1,500，13隻。突棒マダコ2キロ@1,200，ナマコ（赤）3キロ@500，アワビ4キロ@2,300，イソガイ10キロ@500，10隻。ウニ55枚@780，6隻。

※五　色（鳥飼支所）……サワラ流し網（上旬）12尾（目廻2,670g）@1,038，28隻。（中旬）8尾（目廻2,740g）@1,124，30隻



昭和53年度 ノリ養殖の経過と問題点

兵水試　山内幸児

ノリ養殖にとって最大の障害となる異常暖冬を克服し、過去の生産記録を更新する好結果で本年度漁期を終えられることは、生産者の皆さんの努力と関係者のチームワークのたまものであると思います。

ここでは、次年度からの一層の生産安定に少しでも役立てばと願い、まず本年度の養殖経過からみた問題点をみて行きましょう。

養殖経過

採・育苗状況

採苗　各地区とも十月十日頃から本格的に野外採苗や人工採苗網の張込みが始められ芽付は全般に良好であったが、また明石および神戸地区の日本海側での野外採苗も十月九日から行なわれたが芽付は順調で、採苗後一週間以内に大部分の網が各地先に張込まれた。

育苗　十月十日過ぎから気温の降下がみられ、水温も平年降下基準線にそって十一月中旬まで順調に降下した。この間、芽の生長および二次芽の着生は良好で東播および西播地区では大部分の網が入凍された。

なお、淡路地区を中心に採苗五～十日後に異常発芽（写真1）が多くの網に観察され、十月中旬から十一月上旬にかけ再採苗が行なわれたが、芽付や生長が劣り、種網生産が不調に終った漁場が多かった。

本張状況

西播地区で十一月上旬、その他の地区で十一月中旬を中心に本張が開始された。各地区とも本張後のノリの伸びは良く、十二月には例年にない高い生産を上げた。

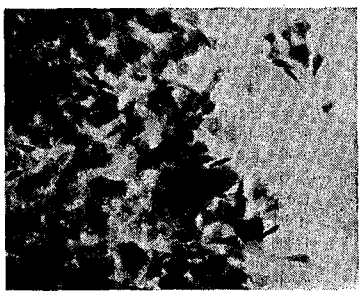
十二月中旬から一月にかけて気温、水温の降下が鈍り、風波の少ない晴天の日が多かった。この間、全漁場でリクモフォラを主とする付着珪藻（写真2）が増大し、特に神戸漁場や西播地区ではドタグサレ症状になった網が多く、品質の低下が著しかった。また、アカグサレ病斑や緑斑病、太陽虫の着生がほとんどの漁場で観察された。

二月に入っても気温が異常に高く、水温も平年に比べ約2℃高いなどの状況が続いたが、地種を主とする張替網の生長が順調だったため、例年にない高い生産が続いた。なお、西播地区では二月中旬から軽度の色落ち傾向がみられたが前年のような急激なものではなかった。

三月になって再びアカグサレ病のまん延がみられたため、東播、淡路地区では網の張替えを行なった漁場が多かった。

四月上～中旬までに西播地区では色落ちアカグサレ症などで徐々に終漁した。東播および淡路地区では三月に張替えした網を中心に四月末まで生産が続いた。

〔写真1〕ノリ網糸に着生した異常発芽体（昭和53年10月27日・森漁場）



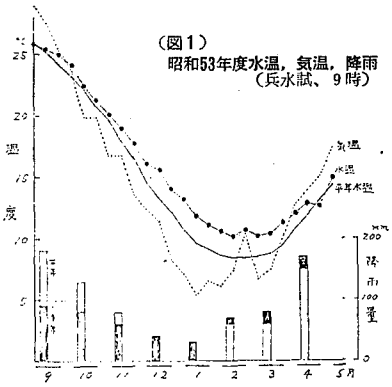
〔写真2〕ノリ葉体に着生したリクモフォラ（昭和54年1月9日・岩見漁場）

養殖環境の経過

気象・海況

明石を基準とした本年度の旬別の主な気象、海況の変動を図1に示す。気温および水温は昭和五十二年度は引続き全般に平年より高目で、特に十二～三月は異常暖冬の影響で気温が平年に比べ非常に高く水温も約二℃高目で経過した。また最低水温が明石地区で一〇℃という特異な現象がみられた。

（図1）昭和53年度水温，気温，降雨（兵水試、9時）

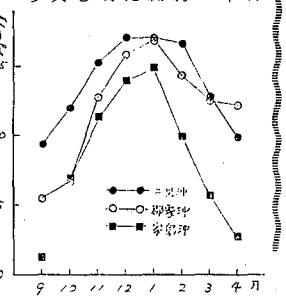


月別の降雨量は、十、十一月が平年より少な目であった外は、平年並ややや多目を記録した。その他、例年になく季節風が少なく、おだやかな日が多かった。

栄養塩

水試で観測されたノリ漁場付近の無機三態チッ素の月別の変動を図2に示す。二見沖ではほぼ平年並、郡家沖では平年より高目の月が多く、家島沖では十二、一月に平年より高目を示した他はほぼ平年どうり四月まで次第に減少する傾向がみられた。

（図2）昭和53年度ノリ漁場周辺における無機3態チッソの月別変動（兵水試・浅海定線調査資料）

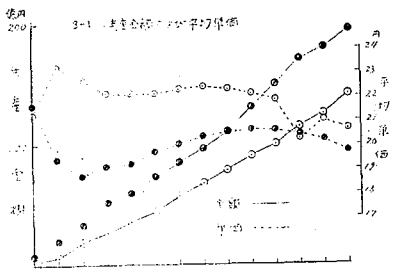


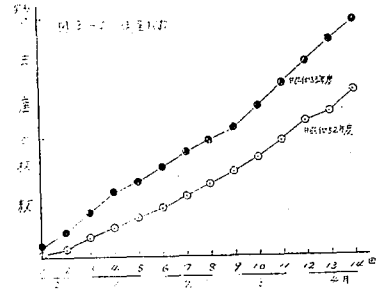
単価は全国第二位

生産状況

月、回別の共販結果を図3に示す。生産量は十二～一月中旬まで急増し、一月下旬から三月上旬まで平年並のペースに戻り、三月～四月に再び急増した。最終生産量は、昭和五十二年度の記録を約三億枚も上廻る本県の最高を示した。また最終生産金額も、漁期後半の平均単価が比較的高かったため、やはり前年度の記録を約五〇億円も上廻る本県の最高を示した。

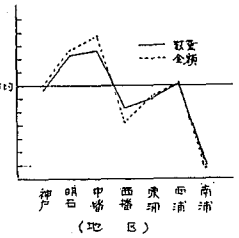
（図3）昭和52．53年度回，月別ノリ生産累積図（共販資料による）





地区別に生産状況をみると、中播および明石地区が高く、次いで神戸、西浦地区が高くなっている。西播および東浦地区はやや平均を下廻っているが、前年度と比較すると平均との差が非常に少なくなっており、やはり好結果を示した。

（図4）昭和53年度地区別棚当り生産比較（共販資料による）



なお、南浦地区の生産が低くなっているが、これは共販以外にかなり出荷されているためで、やはり実際の生産量は前年度を大きく上廻っていると推定される。

全国の共販生産量をみると、昭和五十一、五十二年度とも約六五億枚であったが、やはり本年度は約八一億と大きく伸びている。本年度の生産量を県別でみると、福岡（一三億枚）佐賀（一二億枚）に次いで本県は第三位にあるまた平均単価では東京湾地区（二〇・一五円）に次いで第二位となっている。以上、全国的にみても本県は上位の上質ノリ生産県の地位を確保してきたと考えられる。

地区安対協の役割の充実を——

今後の課題

以上のとおり、本年度のノリ生産は好結果の内に終漁した。これは、生産者および関係者が、県ノリ養殖安定対策協議会を中心に漁場の共同管理と行使に努力した現われだと思う。

しかし、地区でみると、統一した漁場行使ができず漁場や経営休毎にかなり較差のみられたところがあった。この改善のため、地区安定対策協議会の役割が生かされるよう、これから十分協議しなければならない。

本年度の重要な課題の一つであった浮流し採育苗および地種網の確保については、西播地区ではほぼ完全に、東播地区でも約一・五棚分の地種網の確保に近付いたことは大きな成果であった。また、明石地区で、漁期後半に地種網が生産主力を占めたことは、来年度の地種網生産の大きな推進力となった。淡路地区では採育苗が不調だった漁場が多かったが、これについてはノリ品種の面から検討して行く必要があると思われる。

漁場の特徴を生かし質の向上を

生産については、本年度は計画生産制限を大きく上廻ったが、漁期後半の単価が順調だったため生産金額にそれほど影響がみられず豊作年となった。しかし、今後の消費動向によってはこれが来年度の生産のマイナス要因となる可能性がある。本県としては、経営面からの生産量を再検討すると共に、漁場の特徴を生かした質の、向上に努力して行くことが急務であると考える。

病害については、アカグサレ病は発生率の高い高水温時に、降雨量が少なく比較的高塩分の環境であったため軽度であった。しかし十二～一月に付着珪藻や緑斑病がまん延し、著しく品質低下した漁場が多かった。この対策として漁場位置、張込棚数、網の干出管理などの点について検討しなければならない。

以上、ここでは本年度の養殖経過と気付いた問題点について述べるだけにしておきます。これから皆さんと、漁場の集団管理と行使をベースにした地区協議会で、更に詳しく協議を進めて行きたいと思います。

× × ×

信頼された技術から生れた
信頼ある性能品！
株式会社 ゼニライト工業
池田市豊島南2丁目176－1 TEL (0727)62－7001

生まれかわる漁村

―近代施設の建設すすむ

貯氷冷蔵庫・事務所　荷捌所が竣工

―伊保漁協―

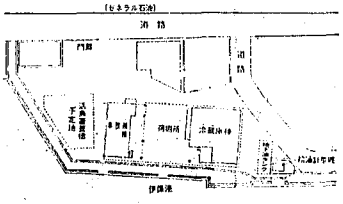
瀬戸内海における異常赤潮の発生や埋立てに依る漁場の縮少等のために、漁船漁業、養殖漁業は不振を余儀なくされています。

とりわけ、播磨海区漁業者にとっては先行き予断をゆるさない局面をむかえています。

伊保漁協では、これらの情勢の変化に対応した漁業環境づくりの一環として、貯氷冷蔵庫、事務所、荷捌所の建設が行われ、近年中に活魚畜養槽が設置される計画となっています。

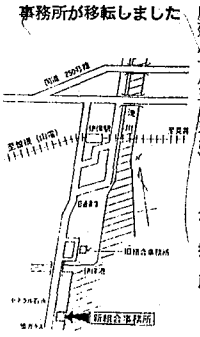
同漁協では、所期の目的を達成するため、全力を傾けています。

×　×



（完成した施設図）

事務所が移転しました



TEL（07944）8―5300

施設の概要

貯氷冷蔵庫

◇鉄筋コンクリート造り平屋建（一八三・五㎡）

◇冷凍機ロタスコ一一KW二基、砕氷機、機械室冷蔵室六室からなり、うち三室は急速冷凍可能

荷捌所

◇軽量鉄骨A・L・C板葺平屋建（二五八㎡）

作業の迅速化、衛生面等も十分配慮された施設

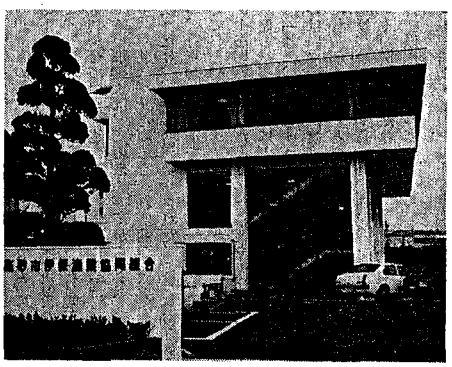
組合事務所

◇鉄筋コンクリート三階建（延六〇七㎡）

◇一階　漁具倉庫及び作業場

◇二階　事務所

◇三階　研修室、調理教室集会室



新設なった伊保漁協事務所

架橋建設地域漁業対策事業

―沼島漁協―

昭和五十三年五月八日沼島総合センターの完成竣工により組合事務所が旧事務所から総合センター内に移り、五月十五日から業務を開始しました。

旧事務所跡地の利用は今後の沼島の漁業振興対策の一環として資材倉庫（購買一部）として改築され組合員の生産向上をはかり資材供給を便利にしようとするものです。

完成した資材倉庫（沼島漁協）

施設の概要

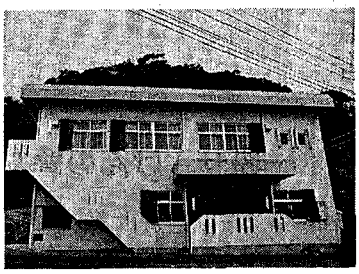
（構造）鉄骨造二階建一棟、（外壁ALC版吹付タイル）

（敷地面積）一四一・〇㎡（四二・七坪）

（建物面積）一階　一八九・五八㎡（五七・四坪）

二階　九八・六九㎡（二九・九坪）

九〇・八九㎡（二七・五坪）



資材倉庫及び作業場施設（南淡漁協）

資材倉庫と作業場

―南淡漁協―

○資材倉庫の設置により組合員の利便を図り購買事業の円滑化および充実が期待される。

○「のり」および「わかめ」加工品の集荷並びに選別作業場の施設を設置し出荷体制と品質の向上を図る。

施設の概要

構造

鉄筋遮二階建（外壁ALC版吹付タイル）

敷地面積　1棟　320㎡

建物面積

1階　資材倉庫　60㎡

事務所部分　100㎡

（階段等含む）

2階　作業場　160㎡

駐車場　91㎡

○作業場を使用しない時は、養殖漁業者および漁船漁業者が互に研究開発ならびに技術交流を図り、漁業経営の安定に寄与する。

資材倉庫と漁具倉庫

―岩見漁協―

施設の概要

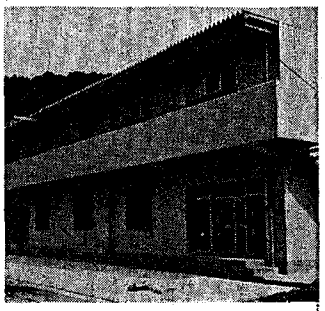
（構造）鉄筋コンクリート造二階建

（敷地面積）一棟　四三七・五㎡

（建物）一階　資材倉庫

二階　漁具倉庫

（移動式電動ホイスト付）



〔写真〕資材倉庫および漁具倉庫施設（岩見漁協）

昭和54年度放流第1号

―ガザミ36万尾を赤穂沿岸に―

県では水産試験場を中心に、放流種苗の移動分散、成長、漁獲状況などを調査し、どんな場所に、どのぐらいの大きさの種苗を、どれだけ放流するのが最も効果的なのか、についての技術開発を行っています。

今年度は、ガザミとマダイについて、この放流調査を実施する計画で、その放流第一号として、四月二十九日にガザミ稚がに三六万尾を赤穂市唐船海岸に放流されました。

この種苗は、瀬戸内海栽培漁業協会で生産されたもので、ゾエア、メガロッパと呼ばれるプランクトン時代を経て、甲幅約5ミリメートルの稚ガニに変態したものです。

放流を実施した唐船海岸は、千種川河口域に形成された大きな干潟地域で、アマモなどの藻類も繁殖し、稚ガニの育成には最適の場所となっています。ここに放流された稚ガニは脱皮を繰返し、夏頃には漁獲サイズに成長する見込です。

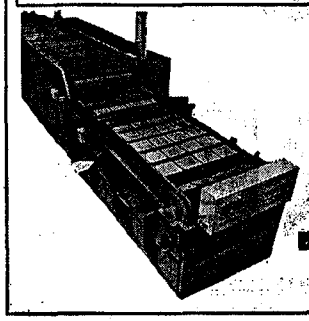
今回放流群についての追跡調査は、県下各地で市場調査、定置、小型底びき網標本漁船による漁獲物調査、各種試験操業などが実施される計画です。

我々は次の世代に、一体どんな漁業と漁場を引継ぐのかという大きな視野に立ち、漁業者として、これら各種事業調査への積極的な協力と参加が期待されるところです。

＜系統団体の動き＞　4月

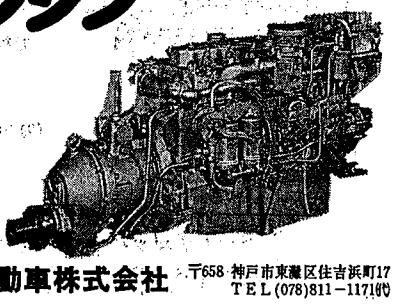
二日　内海漁保正副組合長会
三日　専務参事会
五日　のり入札日
九日　内海漁保監事会
同上　全水共、共済ブロック会議
一二日　内海漁保理事会
一三日　県漁連リース審査会
一六日　のり入札日、基金協会監事会
一七日　信漁連監事会
漁業共済監事会
一九日　漁場油濁基金地方審査会
但馬漁保監事会
二四日　県漁連監事会（在庫検査）
但馬漁保役員会
二五日　基金協会役員会
二六日　信漁連役員会
漁業共済役員会
二七日　県漁連正副会長会
二八日　県漁連役員会
のり入札日
内海漁保通常総代会

省力化の決定版!!



全自動乾海苔製造装置
ニチモウワンマン
ニチモウ株式会社
大阪営業所
大阪市北区中之島2-22（新朝日ビル）
TEL 06（202）5341

いすゞ
マリンエンジン
UM06BBIB
高速への挑戦！



特長
1.小型、軽量、高出力
2.卓越した耐久性、信頼性
神戸いすゞ自動車株式会社
〒658 神戸市東灘区住吉浜町17
TEL（078）811―1171㈹

霧の多発期――船の安全に最大の注意を……

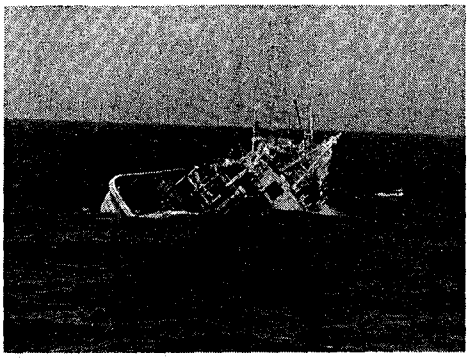
今年も本格的な濃霧期の訪れとともに視界不良に起因する衝突、乗揚げ等の事故が各地で発生しています。

瀬戸内でも、去る4月25日狭視界時の明石海峡航路で、大型カーフェリーとコンテナ船が衝突事故を起しコンテナ船が浸水するという海難が発生しています。

今後とも、霧中における衝突、乗揚げ等の海難の多発が懸念されるところです。

この種事故を未然に防止するため安全運航を最優先とする思想の高揚と海上交通関係法令を遵守励行していただき狭視界時での安全運航に万全を図って下さい。

一、気象情報の早期把握
二、視界不良となった場合の早期避泊
三、海上衝突予防法に定める視界制限状態における航法及び安全な速力の遵守並びに見張りの強化
四、レーダーの適切な使用
五、狭水道における右側航行の励行
六、その他霧中航行の基本的事項の励行



海の航行安全はあなた自身で

◎…国民年金特別納付を実施中…◎

―昭和55年6月まで―

新海洋秩序の下、漁業をとりまく環境は一段と厳しさをましています。

このように状況の中で漁村における福祉問題は従来になく重要なものとなっています。

全漁連で実施した漁村福祉の実態調査では、公的年金、とりわけ、自営漁業者が対象となる国民年金に加入していない漁業者が少なくないことが明らかになりました。

漁業者の中に年金非加入者が少なくないという事はこのまま放置することのできない重大な問題であり、また漁協系統にとって長年の懸案となっている沿岸漁業者独自の年金制度創設の問題についてもその参考となるであろう農業者年金を考えた場合、国民年金の被保険者であることが極めて重要なこととなります。

このような状況の中で国民年金は現在、年金の強制加入者でありながらこれに加入していない人、又、過去に保険料の未納期間があるため年金の受給資格が無い人を対象とし、過去に遡って保険料を納められる特例納付措置を昭和五十五年六月まで実施しております。つきましては、特例納付措置の実施期限が昭和五十五年六月までであること、並びに国民年金への加入が漁村福祉対策上非常に重要であることを十分にご認識いただき、国民年金未加入者、保険料未納の方は、特例納付措置を利用され、年金受給権を取得されますよう、お願いいたします。

国民年金の特例納付措置については、県、市町村の国民年金担当課にお問合せ下さい。

特例納付の対象になるかどうか、保険料を何か月分納めなければいけないか、保険料の未納期間などにより、それぞれ違います。

特例納付の対象となると思ったときは、まず、国民年金課へ連絡してください。

粉せっけんの普及をめざして

―岩見漁港―　海尾　守

無公害石けんを販売する職員

赤潮の名が鳴り響いています。

原因の一つとして「合成洗剤は生体への影響と環境汚染を、ひき合成洗剤は起すために、その使用を中止すべきである」とは近最つとに、悪て全国的な、使用中止運動が展開されています。

御津町岩見漁協では、漁民みずからが海を守っていこう――まず海で生活している我々が運動を進めよう――という決意の下に、合成洗剤の取り扱いを中止し粉せっけんを販売することになりました。

粉せっけんと洗剤の洗浄力を比較してみると、水温十度、三十度では、ともに粉せっけんの方が、すぐれているのです。

海の汚染による被害を直接受けるものは、我々です。

我々が、海を守るための努力を続けていくことが、長い眼でみると、役に立つのではないでしょうか。

水産又は（少くとも、拓水を読む人）海を汚染する洗剤は使わない！という決意を固めようではありませんか。

漁協は勿論、家庭においても、合成洗剤の即時使用中止を実行しよう。

我々のこの輪を、瀬戸内海に、全国へと展開しよう。

漁協一代（その七）

作花英治

漁協生活の序幕（4）

二月の半ばを過ぎると、但馬と違って表日本は晴天が続き、ポカポカとあたたかい日和が続く。試験場海側真下の岩場には岩のりがかかり、それを摘み採って来て旅館から鍋を借り、砂糖をうんと入れて生海苔佃煮を作って、乏しい宿舎の晩を補充した。その後間もなく海苔佃煮の実習があった。醤油で濃紫に色付けされるが、海苔の佃煮の原料は六〇%がムギワラのりと青のりで四〇%が屑の浅草海苔であることを知り、商業ベースの製造というもののモデルを認識させられた。実習の仕上げは、小型試験船で明石海峡を横断しての機関操作、操舵、プランクトン採取、PHイオン濃度測定、水温、比重の調査をしながら、対岸岩屋港を往復することであった。聞くこと、することが新しいことばかり、私は貧窮な商人の如く知識を吸収した。私の生涯にとってこの四十日の講習がたった一度の水産学勉強の機会であったが、私の四十余年の漁協生活の基盤としてどんなに役立ったかわからない。それにしても我ながら一生懸命勉強したものとしてしみじみその頃をなつかしむ次第である。

いっしか四十日が経過し、昭和六年三月五日閉講式が行われた。県から主賓として経済部商工課長の高松という人が臨席した。……水産課は当時まだ商工課の水産係という機構であった……兵庫県水産会という団体の会長小畑種吉氏も臨席した。小畑会長は、神戸の駒ケ林の組合長であり、神戸市に中央卸売市場を開設する際の功労者の一人であり、県下業界ナンバー1として、官界、業界にらみを利かせていた大物だった。小畑御大は、式の最中スパリスパリと煙草を吸ったり、記念撮影の時、写真師がピントを合せて、今やまさにシャッターを切ろうとしたときに、隣席の県商工課長に大声で「課長、写真ちゆうものはいつ頃日本に渡来したもんだろうか」と訊ねかけ、課長が何やら説明する間撮影を待たされ、再び黒布をかぶってピントを合せなおすということもあり、ともかく型破りの人であった。内橋博士は私の勉強振りを賞する意味で不用になった比重計、水温計その他観測器具を一通り餞別に下さって「作花君。組合に戻ってからでも、ひまがあれば勉強し給へ」と激励された。今日なお知遇をいただいているが、私はこんな立派な先生を持ったことを生涯の誇りとするであろう。今でも時折り講習終了記念写真を眺めて二十才の青春の頃をなつかしく思い出している。

（次号へつづく）

第2回全国海の子絵画展

昭和55年2月下旬に

昨年にひきつづき、全漁連主催の第二回海の子作品展が実施されます。

この絵画展は小中学生を対象としたもので「海を愛し、漁業を育てる意識」の高揚を図るものです。

兵庫県海の子作品展で優秀な成績をおさめた作品が全国大会に出品されます。

兵庫県大会の日程は未定ですが、今からでも作品の製作にかかってもらいたいものです。

〔応募作品〕

(1) 小学生および中学生の作品とする。

(2) 昭和五十四年四月から昭和五十四年十二月までに実施した都道府県海の子作品展等において優秀な成績を収めた作品。

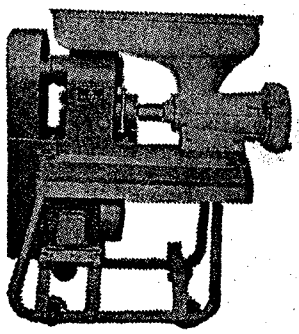
〔題および大きさ〕

(1) 「海」または「漁業」に関係ある題とする。

(2) 大きさは60×45cm以内

第一回作品展より

養魚の調餌と造粒は
コウベヒラガのミートチヨッパーで

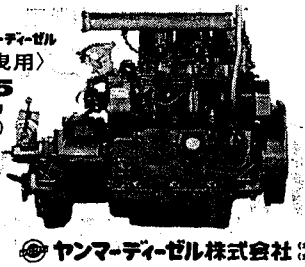


養魚用ミートチヨッパー№32から№72まで各種製作しています。又最近の人工餌料需要の増加にともない生魚と人工餌料をよく練り合せ造粒装置付チヨッパーで給餌することもできます。

（御一報次第カタログ贈呈いたします）

ミートチヨッパーとプレート，ナイフの専門工場
株式会社 平賀工作所　神戸市長田区水笠通5番5号　TEL 代表神戸(078) 921-1527

一滴の燃料を生かす確かな技術
余裕の出力、曳き力抜群！



船用主機ヤンマーディーゼル
〈内海底曳用〉
3EH15
（定格15馬力／1440回転）

●船舶主機用3.0～2400馬力●
●船舶補機用3.5～3600馬力●

ヤンマーディーゼル

●詳しいカタログをお送りします（本社営伝部）まで。

ヤンマーディーゼル株式会社
（本社）大阪市北区浪花町1番32号（〒530）TEL(06)372－1111(代)～
（支社）東京（芝浦）札幌・名古屋・大阪・高松・広島・福岡（営業所）仙台